

# 和の光

宝塚市立西谷中学校



## 「I was born」

吉野 弘

確か 英語を習い始めて間のない頃だ。

或る夏の宵。父と一緒に寺の境内を歩いてゆくと 青い夕靄の奥から浮き出るように、白い女がこちらにやってくる。物憂げに ゆっくりと。

女は身重らしかった。父に気兼ねをしながらも僕は女の腹から眼を離さなかった。頭を下にした胎児の 柔軟なうごめきを 腹のあたりに連想し それがやがて 世に生まれ出ることの不思議に打たれていた。

女はゆき過ぎた。

少年の思いは飛躍しやすい。その時 僕は「生まれる」ということが まさしく「受身」である訳を ふと諒解した。僕は興奮して父に話しかけた。

—やっぱり I was born なんだね—

父は怪訝そうに僕の顔をのぞきこんだ。僕は繰り返した。

—I was born さ。正しく言うと人間は生まれさせられるんだ。自分の意志ではないんだね—

その時 どんな驚きで 父は息子の言葉を聞いたか。僕の表情が単に無邪気として父の眼にうつり得たか。それを察するには 僕はまだ余りに幼かった。僕にとってこの事は文法上の単純な発見に過ぎなかったのだから。

父は無言で暫く歩いた後 思いがけない話をした。

—蜉蝣という虫はね。生まれてから二、三日で死ぬんだそうだが それなら一体 何の為に世の中へ出てくるのかと そんな事がひどく気になった頃があってね—

僕は父を見た。父は続けた。

—友人にその話をしたら 或ひ、これが蜉蝣の雌だといって拡大鏡で見せてくれた。説明によると 口は全く退化して食物を摂るに適しない。胃の腑を開いても 入っているのは空気ばかり。見ると、その通りなんだ。ところが 卵だけは腹の中にぎっしり充満していて ほっそりした胸の方にまで及んでいる。それはまるで、目まぐるしく繰り返される生き死にの悲しみが 咽喉もとまで こみあげているように見えるのだ。淋しい 光りの粒々だったね。

私が友人の方を振り向いて 「卵」というと かれも肯いて答えた。 「せつなげだね」。そんなことがあってから間もなくのことだったんだよ。お母さんがお前を生み落としてすぐに死なれたのは—

父の話のそれからあとは もう覚えていない。ただひとつ痛みのように切なく 僕の脳裡に焼きついたものがあった。

—ほっそりした母の 胸の方まで 息苦しくふさいでいた白い僕の肉体—

(詩集『消息』1957年刊)

## 「受身形で始まった私たちの人生」

校長 筒井 啓介

皆さんは英語の授業で、「生まれる」を I was born. と表現すると習いましたね。文法的には「受身形（受動態）」です。直訳すれば「私は産ませられた」となります。

詩人・吉野弘さんの代表作に「I was born」という作品があります。この詩の主人公である少年は、習いたての英語の授業をきっかけに、「人間は、自分の意志で生まれてくるのではない。産ませられる存在なのだ」という事実に気づきます。

## ■「受け身」から始まる人生の重み

詩の中で、少年は父親から、自分の誕生と引き換えに亡くなった母親の話を聞かされます。私たちは、誰もが自分の意志でこの世を選んで来たわけではありません。自分の容姿、家族、環境。それらはすべて「受動的」に与えられたものです。時には「どうして自分はこうなんだろう」と、その現実に悩むこともあるでしょう。しかし、この詩が教えてくれるのは、その「受身形」の裏側にある強い意志です。あなたが「産ませられた」ということは、誰かがあなたをこの世界へと「産み落とした」ということであり、そこには誰かの命がけの願いや、繋いできたバトンが存在しているのです。

## ■生きる意味を「つくる」

中学生という時期は、自分という存在が分からなくなったり、将来に不安を感じたりする時期です。人生が「受動態」で始まることは、私たちの責任ではありません。ですが、その「与えられた命」をどう使い、どんな物語にしていくかは、これからの皆さんの意志にかかっています。「なぜ自分は生きているのか」という問いに、すぐに答えを出す必要はありません。ただ、自分が多くの存在によって「生かされている」という重みを感じたとき、目の前の景色は少し違って見えるはずです。

皆さん、自分だけの「I was born」の続きを力強く書き進めていくことを願っています。



省略

日	曜	行事
1	日	
2	月	●オープンスクール ノーパーティー
3	火	専門委員会
4	水	♥
5	木	生徒朝礼
6	金	▼
7	土	
8	日	
9	月	あいさつ運動 ノーパーティー
10	火	私学入試
11	水	
12	木	
13	金	校外学習（2年） 安全点検
14	土	
15	日	
16	月	公立推薦・特色入試 ノーパーティー
17	火	ノーパーティー
18	水	●部活動停止 ♥
19	木	
20	金	推薦・特色合格発表
21	土	
22	日	
23	月	
24	火	ノーパーティー
25	水	●学年末考査 給食なし ♥
26	木	▼
27	金	▼
28	土	
◆印はスクールカウンセラー勤務日（希望される方はいじめ防止委員会担当丸山または教頭までお申し出ください）		
【翌月の予定】		
3日 専門委員会 、 5日 生徒朝礼 、 6日 3年生を送る会 、 10日 あいさつ運動		
11日 給食最終日（3年） 、 12日 公立一般入試 、 13日 卒業式準備		
16日 卒業式 、 18～23日 2者懇談 、 18日 給食最終日（1・2年）		
19日 公立一般発表 、 24日 大掃除 、 25日 修業式、離任式		